

庄内小学校 実践報告

1. 中学校英語科教員との連携

本校は小中一貫校であるため、中学校教員と常駐ALTによる外国語活動を行っている。そのため、授業では、毎時間のほとんどの指示や会話が英語で行われている。ALTとの交流も多くなり、子供たちが英語に慣れ親しむ機会が増え、積極的に英語を使ったりALTとコミュニケーションをとったりしようとする態度が育っている。

授業では、ジェスチャーゲームやカードゲーム、かるたゲームなど様々なゲームを取り入れて、グループで活動する機会を増やし、楽しみながら英語でコミュニケーションをとる活動を行った。

このような活動の打合せを、英語科教員とALTとで行っている。小学校の教員ではうまく伝えられないことも伝わりやすく、構想を共有して連携のとれた活動を行うことができた。



2. 校内研修の実施

本年度は、担当が低学年担任のため、担当から職員に向けて外国語活動についての研修を行った。

研修は、小中の教員合同で行った。小学校教員は、今後5、6年生での教科化や、3、4年生での外国語活動の実施に向けて、すべての教員の理解を促すことと、実際に体験して流れやポイントを理解し、敷居を低くすることをねらいとした。中学校教員は、小学校の外国語活動への理解と今後動向についての理解をねらいとした。

実際には、ウォーミングアップとジェスチャーゲームを行った。ウォーミングアップでは、「How are you today?」を使ったあいさつを数人と行う活動をした。ジェスチャーゲームは、デモンストレーションのあと、小グループに分かれて行った。その中で、クラスルームイングリッシュや褒め言葉を使い、実例の紹介をした。また、フォニックスにも触れ、これからの動きに注目していくことを伝えた。



3. 成果と課題

中学校英語科教員と連携した授業の実施は、ALTのネイティブの発音を聞くことができ、充実した環境が整えられた。また、すべての学級で英語科教員が授業を行うため、統一された活動ができ、準備の時間も短くできる。また、教員向けに行った研修では、外国語活動をもう少し気軽に、簡単な英語を織り交ぜて行ってみたいという声が聞かれた。中学校教員の理解も得られ、実りの多い研修となった。しかし、今後教科化されることを考えると、小学校教員の不安は大きい。研修の機会を増やしたり、英語科教員とさらに連携を深めていくことが求められると感じた。